企業支援｜経営計画・実行伴走

計画を、現場が動く仕組みへ

中期経営計画と年度計画を、DX・新規事業・組織づくりの実行へ接続

地域に根差した建設会社からの依頼を受け、中期経営計画と年度計画の策定から実行までを伴走した事例です。計画を文書にまとめるだけでなく、DX、新規事業、人事・組織体制に関する課題を整理し、優先順位、担当、進め方を具体化。経営の方向性を日々の仕事へつなぎ、生産性と働きがいの両立を目指しました。

BEFORE｜取り組み前

将来に向けて取り組むべきテーマは見えていても、日常業務と並行して、何から、誰が、どの順番で進めるかを具体化する必要がありました。計画策定と実行が分かれたままでは、現場の行動につながりにくいことも課題でした。

VIEW｜Uni-One の見立て

DX、新規事業、人事・組織体制は別々の施策ではなく、同じ経営方針を実現するための手段です。そこで、目指す姿から逆算して各テーマの関係を整理し、計画、実行、検証を一つの流れとして進める必要があると考えました。

計画を実行へ移す 4 つの視点			
1　目指す姿を定める	2　課題を構造化する	3　優先順位を決める	4　実行と検証を続ける

ACTION｜計画から実行へつなげたこと

Plan	Design	Execution
中期経営計画と年度計画を整理し、経営の方向性、重点課題、到達点を言葉と行動の両面から具体化しました。	DX、新規事業、人事・組織体制の論点をつなぎ、優先順位、担当、進め方を実行可能な単位へ落とし込みました。	進捗と変化を確認しながら、必要に応じて打ち手を見直し、計画が日常業務の中で動き続けるよう伴走しました。

AFTER｜表れた変化

- **経営の方向性と、年度内に取り組む課題の関係が整理された**
- **DX、新規事業、人事・組織体制を、個別施策ではなく一つの実行計画として捉えられるようになった**
- **優先順位、担当、次の行動が明確になり、計画を進める土台が整った**
- **進捗を確認しながら打ち手を見直す、継続的な実行の流れが生まれた**
- **業務の進め方と役割を見直し、生産性と働きがいの向上を目指す取り組みへつながった**

経営計画と実行課題を一つの流れで整理したことで、構想を日常の行動へ移す共通の基盤が整いました。

この事例から見えたこと

経営計画は、完成した資料ではなく、判断と行動の基準として使われて初めて力を持ちます。Uni-One は、計画策定に加え、複数の経営課題を構造化し、実行可能な単位へ落とし込みます。経営と現場の状況を確認しながら伴走することで、計画が日々の仕事の中で動き続ける状態を支援します。

※企業名および個人が特定される情報は掲載していません。記載内容は支援時の計画、対話および実行状況をもとに整理しています。生産性や働きがいへの効果は、今後の継続的な取り組みを含めて確認するものであり、成果の表れ方は組織によって異なります。